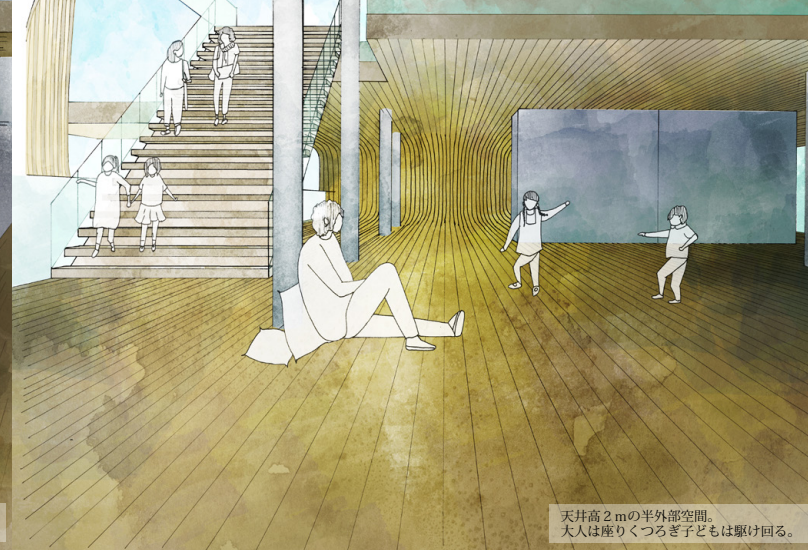
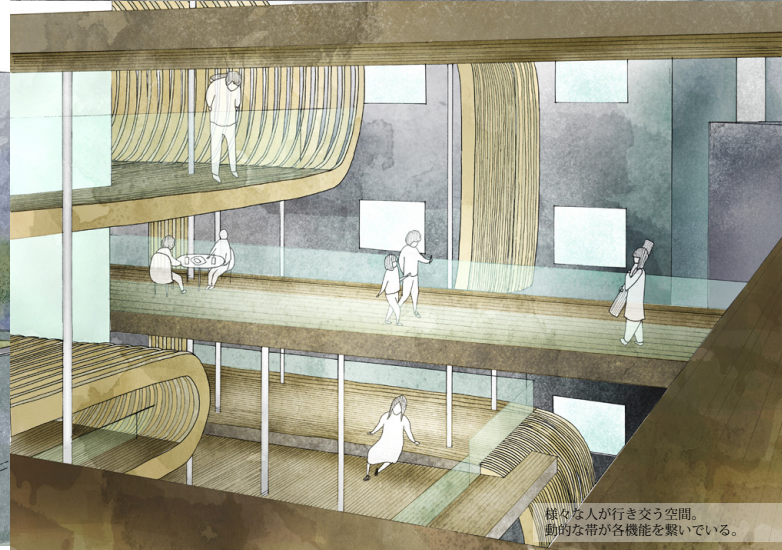
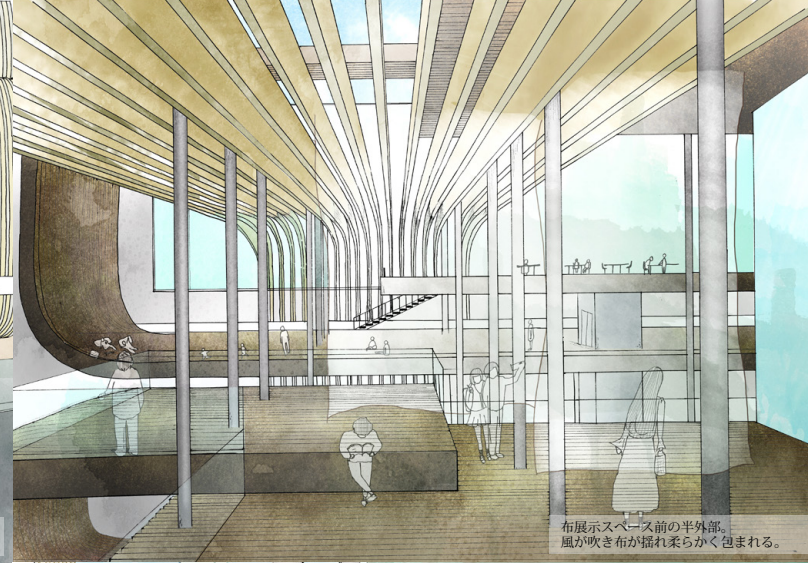
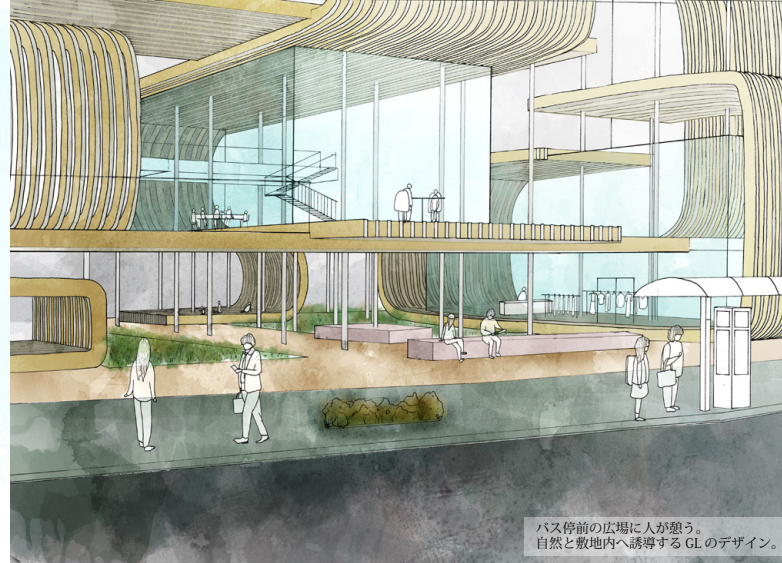
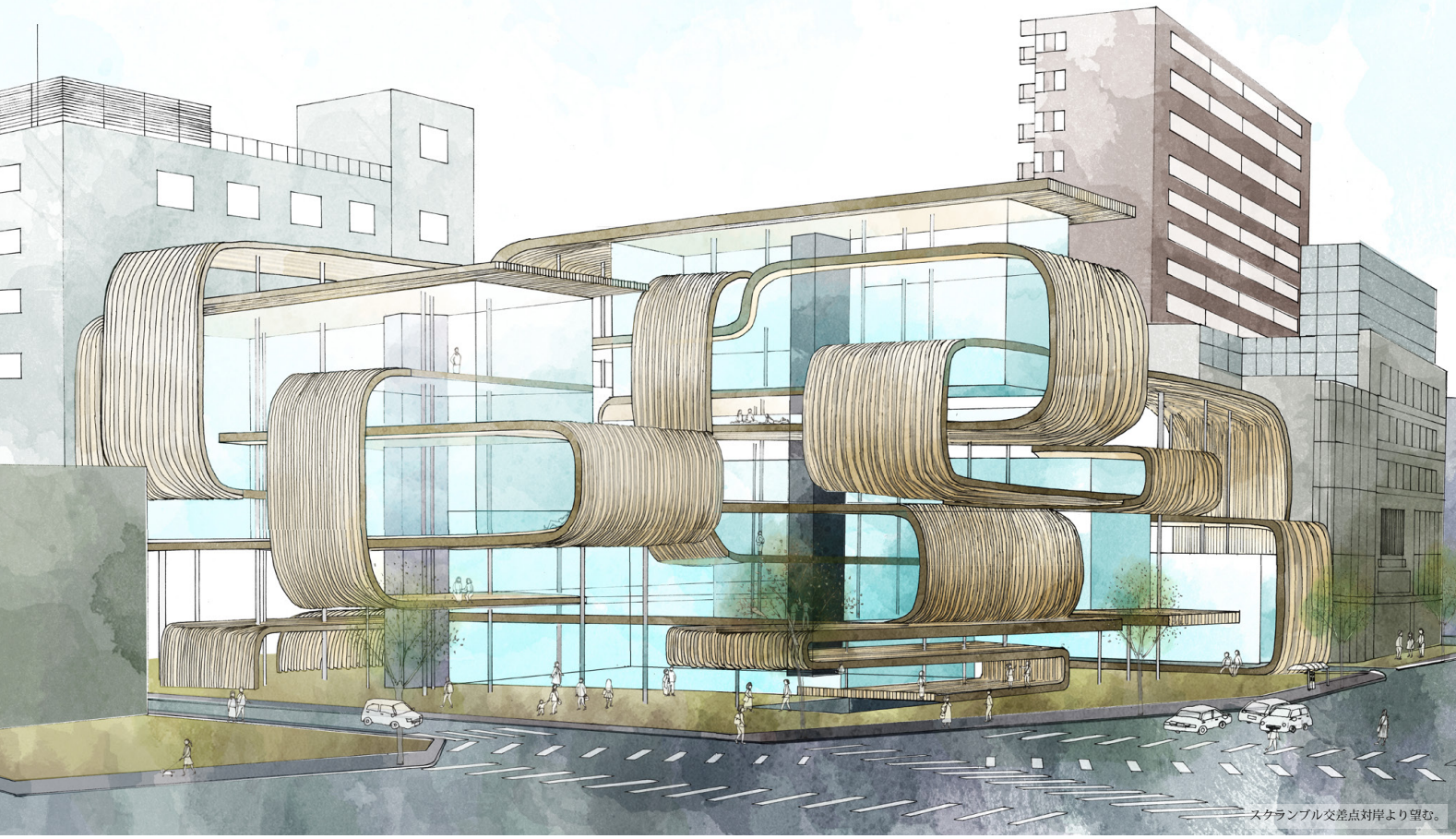


# 隙間を織る

絡まり重なる帯が“隙間”をつくる。

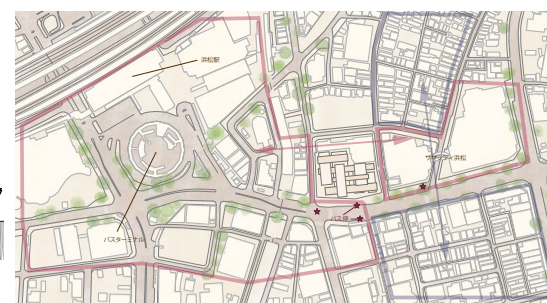
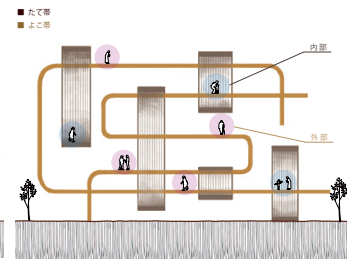
“隙間”は多様に存在し、新たな空間体験を生みだす。



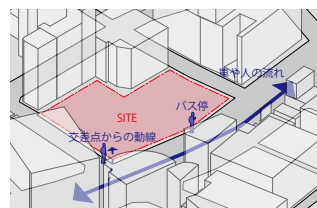
## 1 遠州織物 -background- 2 体験を通して発信する -program- 3 隙間に体験を散りばめる -proposal- 4 周辺との関わり -site analysis-

静岡県西部の遠州地域では、明治時代より織機の発明や染色技術の研究が進み、織物産業を地場産業として発展してきた。それが遠州織物である。ゆっくりと時間をかけて織る高品質な生地であるため、世界最高峰のファッションショーで披露される衣服の生地として数多く用いられているが、日本はおろか地元である遠州地域でもその存在を知らない人が多い。

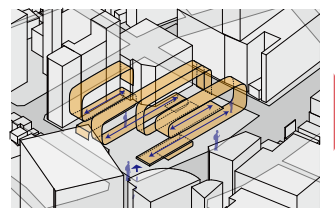
| 1. 見る                                            | 2. つくる                                            | 3. 買う                                             | 4. 触れる                                            |
|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------|---------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| ・ファッションショーやイベントで展示<br>・観光客向けに体験型展示<br>・地元産品の販売促進 | ・伝統的な織機を用いた体験型展示<br>・現代の織機を用いた体験型展示<br>・地元産品の販売促進 | ・伝統的な織機を用いた体験型展示<br>・現代の織機を用いた体験型展示<br>・地元産品の販売促進 | ・伝統的な織機を用いた体験型展示<br>・現代の織機を用いた体験型展示<br>・地元産品の販売促進 |



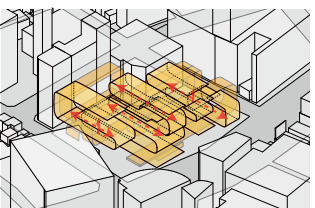
## 5 アクティビティによる帯形状の決定 -how to make-



敷地周辺は主に北側道路に沿って車や人が行き交っている。交差点やバス停などにより一定時間が留まるポイントが存在する。また、動線がそのような場所に集中する。



敷地周辺の人や交通の流れに沿った方向に“動的な”アクティビティを生み出す帯を配置し、敷地内に自然と人が入りこめる流れをつくる。



交通の流れと垂直方向に“静的な”アクティビティを生み出す帯を配置する。本来敷地外からは見えにくい“静的な”アクティビティが敷地周辺ににじみ出る。

**A. 駅との位置関係**  
敷地の北側道路は、駅→バスターミナル→街へとつながるメインストリートである。

**B. 人々が留まるポイント**  
☆：交差点、横断歩道、バス停  
人が一定時間留まるポイントが敷地周辺に点在  
→ ポイントから敷地へ入りこむ流れをつくる GL のデザイン

**C. 周りのボリュームとの関係**  
東西に展開する 南北に展開する  
大ボリューム群 × 小ボリューム群  
本敷地は大ボリューム群と小ボリューム群の境目に位置する。スクランブル交差点の他の3つの角に立つ建築は大ボリューム群に属するため、全体のボリューム感を大きく織り周辺に合わせる。しかし、南北方向には小ボリュームが狭くため、小さい折り重なりや回り込みを増やし、ファサードに変化をつけることで、二つのボリューム群の境界に立つ建築として成立する。

